

拠点

拠点3 嬉泉福祉交流センター 袖ヶ浦

1. 事業概況(運営方針・目標の実施状況)

1) 拠点全体

今年度で3年目となるが、引き続き新型コロナウイルス感染症に振り回された一年であった。児童部、成人部共に入所施設は数回のクラスターが起り、その対応に労力を費やした。しかし両学園共に罹患した利用者は重症化することなく治癒したことは幸いであった。また、入所以外の通所施設に於いては数名の罹患者はあったものの、クラスターになることなく過ごすことが出来た。袖ヶ浦の拠点においてクラスターが発生すると、その対応に総力を向けざるを得ず、その為、その間に行うべき研修や打合せ、行事などが縮小もしくは実施することが出来なかったことや、日常業務はもとより育成面での大きな影響があったと感じている。

入所施設でのコロナクラスター時には利用者だけでなく、職員も相当数の罹患者があったため、利用者支援を継続することが一番の課題であった。利用者の生活を維持するためには最低でもある程度の職員配置をする必要があるが、それに満たない状態が発生し、そこをどのように補うのかが最大の課題であった。大きな問題点は利用者の多くが重度と判定されており、落ち着いて過ごしているように見えても、それは慣れている職員が対応しているからであり、ひとたび職員が変わるとすぐに状態が悪化してしまうことである。その為、他の事業所からの応援を直接入所施設に入れる事は出来ないため、連携している通所施設から入所施設に応援を送り、通所施設に別の事業所から応援を送るという形をとった。このことでなんとか入所施設の運営を維持することが出来た。また背景には児童部、成人部の部内で日常的の支援場面での連携を取っていたことが、この事態を乗り切ることが出来た大きな要素である。恐らくこの連携体制がなければ、入所施設の支援が破綻していたのではないかと思われる。

今年度、コロナと同様に大きな影響を与えたものとして、支援員の不足がある。

児童部、成人部共に支援員不足が継続し、結果的に長期間にわたり補うことが出来なかった。そのことによる打合せや研修などが縮小もしくは実施出来ないことの影響は大きく、支援への理解不足、職員間の支援に対する考え方のすり合わせが出来ない等々、多岐に渡って影響があった。もう少し早い時期に補充することが出来るのではないかと考えていたが、予想以上に難航し、後期になってしまった時点で、派遣職員を導入することにした。しかし、今回、3名の派遣職員を採用したが、どの職員も短期間での採用で終わってしまった。それは個々の職員の問題なのか、入所施設としての支援体制が馴染まないのかは分からない。しかし、やはり重度の利用者への対応については育成期間が必要であり、働きやすい環境を作ることも必要であるが、支援に対しての理解を深め、利用者への思いを持つことが出来るような育成をしていく事が大切であると思われる。その為にも次年度以降、研修体制の見直しと育成の充実を検討していきたい。

2) 袖ヶ浦のびろ学園

袖ヶ浦のびろ学園は支援グループを3つに分け、約15名規模の未就学～小中学生を中心とした「すずめグループ」、中高生を中心とした「めじろグループ」、小規模グループケアを行う定員6名の「はやぶさグループ」で構成した。今年度も引き続き千葉県からの入所児童が東京都からの入所が上回る傾向にあり、入所支援に求められるニーズは、行動障害に対する支援が高く、重度傾向と共に、生活環境に配慮が必要な個別的な対応と個室化が求められた。また今年度は未就学児童の入所が少しずつ増え、敷地内にある子ども発達支援センターたのしみとの連携が必須になった。各々のグループでは、支援環境の少人数化と居住環境、日課の調整、利用者の個人ニーズに対応した支援を行う事でグループ運営の充実を図った。

3) 袖ヶ浦ひかりの学園・グループホーム春のひかり

袖ヶ浦ひかりの学園においては、新型コロナウイルス感染症のクラスター以外は大きな疾病はなく過ごすことが出来た事もあり、利用率については当初の見込みと大差なく運営が出来た。ただし高齢化に伴う骨折や、食物をのどに詰まらせてしまうことは増加傾向にあり、生活環境を整えることや、生活の仕方を年齢に合わせたものにしていく事で対処している。しかし、あまりにも配慮しすぎることで本来持っている本人の力が発揮できなくなることの無いように対処方法の見極めが大切であると感じている。また、短期入所事業については新型コロナウイルス感染症蔓延予防の為に新規の利用者を控えている状態が継続している事もあり、利用率は5割程度であった。この事態については改善をすることを早急に次年度検討していきたい。

グループホーム春のひかりにおいては今年度もコロナ感染症への対応ということで、住人たちの生活や行動が大幅に制限されることが多かった。8月には住人2名、職員3名のコロナ感染があり、ゾーニングや隔離をして、残る住人2名への感染は防ぐことができた。引き続き、コロナ感染症対策のため、宿泊を伴った遠方への旅行は中止とした。8月の感染があつてからは、誕生日のお祝いやクリスマスなど季節の行事なども、コロナ感染が怖いからという住人の声もあり、なるべく人が集まるような機会は作らないようにした。毎日の世話人の配置、毎日の朝食提供を引き続き行った。世話人との関りの機会が増え、家庭に代わる暖かさのある大事なひと時となるようにしたことで、住人たちが安定して過ごしている一因となっているように感じている。

4) 児童発達支援センターたのしみ

児童発達支援センターたのしみにおいては、利用者を通じた関係者会議（他事業所・学校など）に積極的に参加した。しかし新型コロナウイルス感染症のため利用を自粛するケースが増え昨年度に比べ利用実績が減少した。また、同一敷地内にて新型コロナウイルス感染症が発生し2週間休園の措置をとったことや、学校等で感染者や濃厚接触のため、欠席する利用児童が多く見られたが緊急事態宣言中の学校の休校がなくなり利用を控えることが減少した。結果的には感染拡大の時期に他事業所の休園等もあり昨年度に比べると利用率は若干伸びている。

今年度より、千葉県社会福祉事業団の事業を引き継ぎ児童発達支援センターヒツジ（通所療育支援室パندا）の事業を開始した。袖ヶ浦市をはじめ君津市・富津市と委託契約を結び各市に専門職を派遣して療育を行った。袖ヶ浦市については嬉泉福祉交流センター敷地内に療育室を設置し地域の未就学児童に言語・心理・運動等の専門的療育を実施した。また、依頼に基づき、近隣の保育所へ施設指導支援を実施した。

5) 袖ヶ浦市福祉作業所うぐいす園

袖ヶ浦市福祉作業所うぐいす園においては、引き続き、両事業共に欠員はあるものの、少しずつ利用者が増えている状態であるが、今後はより利用者増に向けての取り組みを検討していく必要があると感じている。しかし、利用者やその家族においては利用の満足度は高く、当法人が運営している事に対して一定の評価はありと実感している。また、袖ヶ浦市にある千葉県立楨の実特別支援学校からの実習生の受入れや体験、見学などは、継続して問い合わせがあり、地域に根差した作業所となりつつある。

6) 相談支援事業所えにし

相談支援事業所えにしにおいては、えがお袖ヶ浦（袖ヶ浦市障害者相談支援事業所）が拡充され、2021年1月18日から袖ヶ浦市基幹相談支援センターが開所したことに伴い職員を配置している。また引き続き袖ヶ浦市障害者相談支援事業所も袖ヶ浦市基幹相談支援センターも、えがお袖ヶ浦として一体的に運営、実施した。現状として計画相談の依頼は多くあるが、現在の人員配置では対応が出来ない状況が続いている。

2. 年間行事等実施状況

※別紙1「年間行事等実施状況」参照

3. 職員体制

※別紙2「組織図」参照

4. 会議、委員会

1) 会議・打ち合わせ等の実施状況

- ・運営会／毎週金曜日
- ・グループセッション打ち合わせ／
 - めじろ・はやぶさ 8回 ●すずめ 12回 ●こもれび 0回 ●せせらぎ 1回
 - さざなみ 2回 ●えにし 6回 ●きずな 2回 ●うぐいす 12回 ●グループホーム 2回
 - たのしみ 2回 ●サービス向上委員会 7回 ●厨房 9回 ●医務 7回 ●環境整備 7回
 - 研修係 9回 ●広報 3回 ●情報セキュリティ 1回 ●災害対策 2回 ●労働衛生 6回
 - 事故防止 5回 ●人権擁護 8回 ●苦情解決 1回

2) 委員会

●苦情解決委員会

1. 方針

利用者が自己実現に向けて落ち着いて暮らせるよう学園生活を整え、苦情受付を実施し、利用者や保護者からの視点や意見、間接処遇支援者と直接処遇支援員の意見を理解し、落ち着いた生活環境の保障と生活の質の向上に努める。

2. 経過

①苦情受付の窓口の設置を、利用者および保護者、またはその家族に周知させる方法の工夫。

保護者会にて、保護者とのグループ面談や個別面談でお伝えし、発言をさえぎらないよう話しやすい雰囲気を作った。抱っこ法のセッションなどを継続することで、本人の意思などを確かめ、思いを汲み取れるよう支援した。また、インシデントレポートを作成し、苦情に繋がってしまう前段階でどのような対応を行ったのかを共有することで再発の防止を図った。

②苦情解決について意識を共有し、日常生活の中で早期に発見できるよう協議する。

小規模の個々の会議などで、直接利用者とかかわる支援者から情報を集めた。苦情が発生しそうなケースを検討し、方向性や意見の食い違いにならぬように情報を共有した。ご連絡やグループ担当者に意見が寄せられた段階で、各管理者と迅速に情報を報告し細やかに対応した。

③苦情となる前の段階で、対応できる体制の確立。

利用者や保護者、またその家族の不安など、要望の中にある苦情の芽を早期に気づくよう情報収集した。保護者会や個別面談、電話などではじっくりと話を受け止めて早期対応に努めた。特に今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令もあり、予定表通りの帰宅が実施できなかった（ひかりの学園については全中止）こともあり、保護者の不安感は強く、より連絡を密に摂る必要があった。そうした中で苦情に発展するケースはなかった。

④第三者委員との連携を図る。

新型コロナウイルス感染拡大の状況もあり、今年度については視察等中止し、インシデント件数の報告を行うのみとした。また、例年受けていると同様に、第三者機関によるサービス評価アンケートを実施し、保護者や支援員の意見を受け止めて、今後の苦情解決への意識向上に努めた。

⑤苦情件数

のびろ	0件
たのしみ	0件

ひかりの 0件
うぐいす 0件

3. 苦情解決第三者委員

氏名	性別	推薦区分	職業等
請井征力	男	関係団体	(社福) 佑啓会 市原市福祉会館館長
小島直子	女	関係団体	袖ヶ浦市民生委員・主任児童委員
宮本秀樹	男	関係団体	長野大学 社会福祉学部 教授

●情報セキュリティー委員会

年度当初の事業計画に沿って、委員会として以下の活動、取り組みを行った。

- ・個人情報媒体の管理体制の再点検及び、個人情報を含む情報機器・媒体・ネットワークへのアクセス制御や管理の仕組みの維持。
- ・情報セキュリティーや個人情報の取り扱いに関する全体研修の実施。
実施日：2021年3月27日（土）14時～15時 職員37名が参加（委員3名含む）
- ・その他、一昨年度からの取り組みを踏襲し、2021年2月に嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦全体（全職員）を対象としたアンケートを実施し、個人情報の取り扱いや情報機器の利用状況について継続調査を行った。また、コロナ渦による影響でオンライン会議等の頻度が急増し、これに対応するため、新たな情報機器の整備・増設を行っているが、運用方法の改善等は、今後の課題である。

●人権擁護委員会

今年度はコロナ感染防止対策を講じた上で、月毎の委員会会議を実施した。例年実施している虐待防止に関わるセルフチェックシートによる実態調査については、従来紙面にて配布回収をしてきたが、集計の負担の軽減及び、各職員の記入の負担を軽減するため、専用ソフトを導入し実施した。その項目設定のし直し等の作業があり、今年度については1月のみの1回実施することとなった。9月の拠点全体研修の中では過去に実施したセルフチェックシートのフィードバックとして、自由筆記で得られた回答のうち疑問点等を中心に、児童部及び成人部の両部長より返答または所見について話を聞くといった試みを行った。日々、様々な葛藤を抱きつつ利用者支援を行っている職員にも好評であった。引き続き、身体拘束に関する意識付けと現状の支援の振り返りを行いながら、人権擁護の理解に紐づけていくことでより安全に利用者が生活していけるような体制を作っていく。

●事故防止委員会

引き続き、ヒヤリハット件数の増加への働きかけを中心に、重大事故の振り返りやマニュアルの整備を行った。今年度は、提出されたヒヤリハットを各セクションで傾向や緊急性の高いものに分類、それを分析、管理者等と話し合いを持ってもらった。それを委員会にて報告、グループへフィードバックをして、グループで検討してもらうようにした。ヒヤリハットに対して各セクションごとにやり方を工夫したことにより、件数も増えたり、支援に生かされることが増えてきている。

支援マニュアルについては各グループで改定、整備を行ってもらい、委員会へ提出をしてもらった。全体の共通マニュアルは、引き続き確認や整理をして、改訂を続けている。

●サービス評価委員会

2ヶ月に一度の頻度で、活動を行った。一昨年度行った施設内点検の資料を参考に今年度再点検を行い、気になる箇所や修繕が必要な箇所、また改善されている箇所などを再把握し、今後も実際の取組や改善に繋げていけるよう、業者に依頼した方が良いものや営繕・外作業

に依頼したいもの、委員会の活動で取り組んでいきたいものなど、10に分類し、分類して新たに作成をした資料は運営会に報告として提出をした。

またその資料の中から、委員会の活動として、2023年2月16日にプール倉庫の片づけ・掃除を行った。当日は、委員の他、お手伝いで職員に参加してもらい、合計8名で作業を実施した。

●労働衛生委員会

① 方針

全職員の心身の健康を維持・増進するよう努めるとともに、安全衛生を第一とした、事故のない職場作り、感染症など未然に防ぐための情報取得や予防の実施、メンタルヘルスのケア、各種ハラスメントの防止に努めた。

・感染症や新型コロナウイルス感染防止対策は、事業所全体で取り組み、実施した。全職員に出勤前検温、マスク着用、手洗い、手指消毒など継続的に奨励した。

② 報告

ア. 労働安全衛生委員会の実施

毎月、委員会で各部署からの報告、情報共有、産業医からの意見、アドバイスを享受し、現場に反映させられるようにした。

※5月30日に予定していた委員会は、ひかりの学園で新型コロナウイルス感染症クラスター発生のため、開催を中止した。

イ. 産業医の施設内巡視回数

袖ヶ浦のびろ学園：3回（7月、11月、3月）

袖ヶ浦ひかりの学園：3回（4月、8月、12月）

地域支援センターたのしみ：3回（6月、10月、2月）

袖ヶ浦市福祉作業所うぐいす園：2回（9月、1月）

ウ. 産業医による健康相談及び診察

健康診断の結果、要再検査となった職員に対して、産業医が順次面談もしくは診察を行い、職員の健康管理に携わった。

③ストレスチェック実施

2022年11月21日～12月2日で実施。対象者105名。回収101名。外部委託による受検、診断を実施した。高ストレス判定者は、14名。全体の13.9%で、業界平均を若干下回る結果だった。例年通り、高ストレス者には、希望により産業医の面接指導を推奨したが、今年度も面接希望者はいなかった。

ストレスチェックの実施結果は、木更津労働基準監督署に届出を行った。

●広報委員会

法人の委員会と連携し嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦として法人全体で取りまとめている情報の見直しや、袖ヶ浦にある各事業所での情報を独自に発信していく窓口の役割を担っている。

年度内に行った業務は以下の通り

①法人ホームページの情報の見直し及び、リーフレットの情報の見直しを行った。

（嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦各事業所分について）

②嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦各事業所利用者の保護者向けに広報誌「うたのひ」を作成及配布を行った。（5月、8月、11月、2月の年4回発行）

●災害対策委員会

1. 実施概況

本年度の防災訓練は、下記の通り夜間の火災を想定した訓練を重点的に実施した。袖ヶ浦のびろ学園においては、より実践的な訓練を目指し、実際の夜間（19時15分以降）に避難誘導訓練を実施した。個々の支援員が自分の役割を自覚し、限られた支援員数で、迅速かつ滞りのない円滑な避難誘導ができるよう実施した。また、8月（火災想定）及び3月（震災）は袖ヶ浦のびろ学園・袖ヶ浦ひかりの学園・地域生活支援センターたのしみの全職員、全利用者を対象とし、自衛消防隊による組織的な総合訓練を行った。あらゆる火災及び震災の想定

を考え、今後も利用者の安全を第一に考えた訓練を実施する。特に震災での電話・放送機器が使用できない状況において連絡方法や避難誘導経路など本部との連絡がスムーズに行くよう検討していく。また負傷者が出た場合にタンカーや車椅子等使用することも検討していく。

火災通報装置を自火報連動型に改良工事を行い、火災及び誤作動も含めて消防本部に通報となることからスムーズに対応できるように検討する。

毎月 1 回消火訓練を実施した。消防用設備(消火器及びスプリンクラー)の説明やパッケージ型消火設備を使つての訓練を部署ごとに少人数で実施した。その他、消防用設備の設置年数の経過に伴い、修理や交換を必要とする箇所が年々増加する傾向にあるため、業者による年 2 回の定期点検において、指摘のあった箇所については、順次、修理や交換を行い、消防用設備等のメンテナンスに留意した。

2. 防災訓練の実施状況

①避難訓練

実施月日	訓練種別	訓練内容
4月30日	日中の震災	避難誘導、通報、消火
5月28日	夜間の火災	避難誘導、通報、消火
6月25日	夜間の火災	避難誘導、通報、消火
7月25日	夜間の火災	避難誘導、通報、消火
8月28日	日中の火災	総合訓練、避難誘導(二次避難)
9月24日	夜間の火災	避難誘導、通報、消火
10月29日	夜間の火災	避難誘導、通報、消火
11月26日	夜間の火災	避難誘導、通報、消火
12月17日	夜間の火災	避難誘導、通報、消火
1月28日	夜間の火災	避難誘導、通報、消火
2月25日	夜間の火災	避難誘導、通報、消火
3月10日	日中の震災	総合訓練、避難誘導(二次避難)

②消火訓練

実施月日	訓練種別・内容
4月29日	パッケージ型消火器での訓練と操作
5月31日	パッケージ型消火器での訓練と操作
6月26日	消火器での訓練と操作
7月30日	消火器での訓練と操作
8月31日	消火器での訓練と操作
9月24日	消火器での訓練と操作
10月29日	パッケージ型消火器での訓練と操作
11月30日	消火器での訓練と操作
12月18日	消火器での訓練と操作
1月25日	消火器での訓練と操作
2月3日	消火器での訓練と操作
3月10日	消火器での訓練と操作

5. 福利厚生

①定期健康診断(年 2 回)

対象：全職員(深夜勤に当たっていない者は年 1 回)

実施：1 回目 2022 年 10 月 26 日

2 回目 2023 年 2 月 15 日 (夜勤対象直接支援職員)

実施人数：1 回目 55 名

2 回目 45 名

場所：学園内 (ちば県民保健予防財団検診車)

検査項目：問診、診察、視力、聴力、血圧測定、胸部測定、ウロビリノーゲン測定、尿潜血測定、尿糖測定、尿蛋白測定、心電図、便潜血測定、肝機能測定、腎機能測定、脂質測定、炎症測定、貧血測定、糖尿病測定

備考：生活習慣病予防検診の対象者は、1 回をそれに含める。

②生活習慣病予防検診(年 1 回)

対象：35 歳以上の職員

実施：2022年9月28日、29日、30日

実施人数：71名

場所：学園内（ジェイコー千葉病院）

検査項目：問診、診察、視力、聴力、血圧測定、心電図、検便、検尿、血液検査〔貧血・生化学検査〕脂質、肝機能、胃部レントゲン、胸部レントゲン、身体測定（腹囲、BMI含む）、乳癌・子宮癌検査（希望者のみ）

備考：日帰り人間ドックの対象者は、それに含める。

6. 職員研修

1. 方針(再掲)

社会的な背景としての福祉人材不足や人材の流動性が依然としてあり、当拠点でも新たに採用される職員が増え、勤続年数の短い職員の割合も増加傾向が続いている。

一方、実績のある法人として地域からの期待と信頼も厚く、質の高い支援の提供が求められており、これまで培ってきた知識・技術を維持、発展していくことが重要であるとする。

幅広い研修ニーズに応じて人材育成を行っていきけるよう、新しい職員向けの基礎的な研修、専門性を高める研修、各階層別、目的別に合わせた研修を企画、実施していくことが必要である。また昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、従来の研修を縮小せざるを得ない状況であった。今年度については幾分緩和されてきているが、まだ見通しが見えないところはあるため、感染予防対策を徹底し、ICT機器を活用するなどしながら、研修に取り組んでいく。

2. 事業所内研修

①受容的交流理論に基づく対人援助の知識や技術を高める

- ・夏季療育合宿、冬季療育合宿は実施なし。
- ・法人主催の自閉症セミナーは実施なし。
- ・法人職員全体研修(2/18)へ参加。袖ヶ浦のびろ学園職員が事例発表を行った。

②新人職員の育成

- ・4月1日、昨年度の中途採用職員、新人職員を対象に新人研修を実施。事務説明、事業所見学、発作講習、植樹等を行った。
- ・7月7日、昨年度の中途採用職員、新人職員を対象に新人職員フォローアップ研修を実施。内容は、座談会、調理活動、プール講習を行った。
- ・昨年度の心のケア研修は、実施しなかった。次年度2年目以降の職員へ向けた研修の企画と話し合いを行った。

③法人事業所間の交流研修への参加

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、県を跨いで職員移動は様子を見たほうが良い為、行っていない。

④心のケア(抱っこ法)研修を通して感性や援助技術の向上に努める。

- ・袖ヶ浦ひかりの学園、袖ヶ浦のびろ学園の担当する職員が利用者と一緒に週に一回セッションに参加した。

⑤拠点内全体研修の実施

- ・全体研修会…常勤職員全員を対象に9月18日に行った。内容は、感染症予防についての講義、ケース研究発表会、消防設備に関する、人権擁護研修。感染症予防についての講義は、外部講師（独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター感染管理認定看護師）を招いて、座学で学んだ。
- ・プール講習会…新人、異動職員を対象に、7月7日、事故防止、救助法獲得の為の研修として、施設内のプール見学と教材（DVD視聴）を使用して研修を行った。

⑥各職種に必要な知識を高める

千葉県知的障害者福祉協会児童部会は、オンラインで意見交換や情報共有等を行った。障害者支援スタッフ部会については、職員派遣は行っていない。

7. 施設整備(建物改修・修繕含む)

- ・袖ヶ浦のびろ学園 すずめグループGHPエアコン設置
総費用 1,793千円 (自己負担金 1,793千円)
- ・袖ヶ浦のびろ学園 のびろ整理室大型洗濯機設置
総費用 2,987千円 (自己負担金 2,987千円)
- ・袖ヶ浦ひかりの学園 ひかりの厨房食器消毒保管庫設置
総費用 495千円 (自己負担金 495千円)

8. 社会に向けての活動

1) 広報・啓発事業

①自閉症実践療育セミナー

※今年度はコロナ禍のため中止にした

②「嬉泉の新聞」の発行

「嬉泉の新聞」では、福祉関係有識者や法人理事等の関係者による巻頭言、法人内トピックスの紹介、運営・財務にかかわる情報等、法人に関わる各種情報の公開等を行なっている。年2回の定期発行とし、作成した新聞は、利用者、法人関係者、協力者、関係諸機関・団体等に無料配布している。また、職員採用説明会等で配布をしている。

③インターネット・ホームページ管理

「嬉泉新聞」とともに、本法人にかかわる各種情報の公開を目的として、よりアップ・トゥ・デイトな情報を発信している。今後、法人の情報発信として、研究発表内容、石井哲夫前常務理事の講演のビデオ配信など順次掲載して、より情報発信力のあるコンテンツにしていく方針となった。

ホームページの主な掲載内容

- ・インフォメーション(嬉泉バザー開催のお知らせ他)
- ・嬉泉について
- ・嬉泉事業所案内
- ・法人公開情報(運営財務に関する公開情報他)
- ・採用情報
- ・アトリエ・アウトスについて
- ・嬉泉新聞アーカイブ

④法人パンフレット・事業所パンフレット

各事業所がそれぞれに作成した事業拠点ごとの事業所パンフレットとともに、本部及び各事業所において活用している。

⑤アトリエAUTOSの活動内容

- ・作品販売

「社会福祉法人嬉泉における著作権物の取扱内規」を作成し、本年度もギャラリー段々色と委託販売契約を結んでいる。

- ・作品展開催

2) バザーの開催

①嬉泉バザー

※本年度は実施せず

②嬉泉ふれあい祭りバザー

※本年度は実施せず

9. 実習生・ボランティア等の受け入れ

1. 方針(再掲)

社会福祉関係職員養成ならびに学園情宣を目的とし、積極的に実習、研修、ボランティア、見学を受け入れる。

① 実習生の受入(総数：一名)

名	称	
東京都市大学		断り
千葉明德短期大学		断り
アルファ医療福祉専門学校		断り
白梅学園大学		断り
白梅学園短期大学		断り
東洋大学		断り
十文字学園女子大学		断り
東京家政大学		断り
東京家政大学短期大学部		断り
日本児童教育専門学校		断り
武蔵野大学		断り
清和大学短期大学部		断り
聖徳大学		断り
千葉敬愛短期大学		断り
千葉経済大学短期学部		断り

※本年度は新型コロナウイルス感染症の見通しが立たないため、実習生受け入れの可否を判断していない。今後、新型コロナウイルス感染症の状況や動向を見極めながら受け入れを行いたい。

② 知的障害者関係施設及び学校からの研修生(総数：一名)

③ 見学者の受入(総数：24名)

名	称	人数
入所希望者		12
通所希望者		6
しいの木特別支援学校		3
君津特別支援学校		2
君津市役所		1

10. 営繕・保守管理

1. 方針

- ①適正な維持管理を行う為に、施設最低基準はもとより建築基準・消防法などを踏まえ所点検・メンテナンス・保守等を実施する。
- ②施設・設備の維持管理は、一義的にはその性能維持や機能確保、財産価値保持を目的とするものであるが、同時に施設運営に係る費用の効率化につながるものであり、更には学園の利用者が受けるサービスの質や生活の快適さを保障することをも目的とする。適正な維持管理を行うために、施設最低基準はもとより、建築基準法、消防法などを踏まえ、諸点検、メンテナンス、補修等を実施する。
- ③施設内外の清掃及び環境衛生は利用者の快適な生活を保障するために重要な事であるので環境整備の確保に努める。土地・施設を清掃・整備して常に清潔並びに美観を保つと共に、廃棄物について適正に処分し、又病気発生予防の観点から害虫駆除等を行う。

2. 計画内容

①簡易専用水道管理

検査機関(千葉県薬剤師会検査センター)へ依頼 良好

②プール管理

ア. 6月下旬までにプールの掃除を行い7月には使用できるようにした。

イ. 日々、プールを使用する前にろ過機を薬品洗浄及び薬注入ポンプの点検を実施した。

- ウ. 月に一度プール水を上総環境調査センターに検査の為に提出した。
- エ. 濁度計を使い、ろ過機の性能をチェックした。
- ③地下タンク・浄化槽管理
 - ア. 地下タンクを週に一度配管・タンクより油漏れがないか点検を行う。残量をチェックし使用量を記録に残した。また地下タンク在庫と漏えい検査管点検を実施した。
 - イ. (株)袖ヶ浦興産と契約し、浄化槽の保守点検を実施した。
- ④草刈り
 - 春～秋/学園周囲の草刈りを行った。
- ⑤樹木の手入れ
 - 秋～冬/学園周囲に木が多くある為ために刈込み、手入れを行った。
 - 秋/栗拾いや銀杏拾いを行った。
- ⑥行事に伴う外作業・荷物運搬を行った。
- ⑦学園全体の桜の害虫駆除や蜂の巣の駆除を行った。
- ⑧ごみステーションを利用しやすいよう清潔を保った。グリストラップの清掃を行った。

1 1. 公用車運行管理

1. 方針

利用者の週末帰宅時及び週初め来園時における送迎や、日常生活における外出、買い物、通院、通学等に使用するため、安全運転管理者のもとで各種車輛の計画的な運行を行うと共に、運行が安全かつスムーズに行われるように、適宜車検整備及び法定点検を行った。また、車両担当が月例点検を実施し、異常があった場合には速やかに報告、使用禁止等の対応をした後、修理改善を図る。

今年度は事故やあおり運転等の被害にあった時の正確な状況把握の為、利用者送迎用の車両7台（ブルーサーフ、シビリアン、シルバーキャット、インディゴベアー、銀、コースター、スノーホワイト）にドライブレコーダーの取付を行った。

2. 実施内容

・安全運転管理者

安全運転管理者・副安全運転管理者を配置し、講習を受講した。また、職員の安全運転を促進するため指導を行った。

・車両管理

車両名	実施内容
①ブルーサーフ	<ul style="list-style-type: none"> ・JA 三井オートリース(株)とリース契約中 ・車検整備、法定点検、月例点検等を実施(車検1年毎) ・ドライブレコーダー取付
②シビリアン	<ul style="list-style-type: none"> ・日立キャピタルオートリース(株)と再リース契約(1年契約) ・車検整備、法定点検、月例点検等を実施(車検1年毎) ・ドライブレコーダー取付
③グレーハウンド	<ul style="list-style-type: none"> ・日立キャピタルオートリース(株)と再リース契約(2年契約) ・車検整備、法定点検、月例点検等を実施(車検1年毎)
④シルバーキャット	<ul style="list-style-type: none"> ・法定点検、月例点検等を実施 ・ドライブレコーダー取付
⑤トヨエース	<ul style="list-style-type: none"> ・車検整備、法定点検、月例点検等を実施(車検1年毎)
⑥インディゴベアー	<ul style="list-style-type: none"> ・法定点検、月例点検等を実施 ・ドライブレコーダー取付
⑦銀(しろがね)	<ul style="list-style-type: none"> ・法定点検、月例点検等を実施 ・ドライブレコーダー取付
⑧ラウム	<ul style="list-style-type: none"> ・車検整備、月例点検等を実施
⑨コースター	<ul style="list-style-type: none"> ・日立キャピタルオートリース(株)と再リース契約(2年契約) ・車検整備、法定点検、月例点検等を実施(車検1年毎) ・ドライブレコーダー取付

⑩タイガー	・日立キャピタルオートリース(株)と再リース契約(2年契約) ・車検整備、月例点検等を実施(車検1年毎)
⑪ピノキオ	・法定点検、月例点検等を実施
⑫シルバールビット	・車検整備、月例点検等を実施
⑬焼芋車	・車検整備、月例点検等を実施
⑭イエローライト	・車検整備、法定点検、月例点検等を実施(車検1年毎)
⑮プレジャー	・車検整備、月例点検等を実施
⑯エレファント	・車検整備、法定点検、月例点検等を実施(車検1年毎)
⑰はりきりたのしみ号	・車検整備、法定点検、月例点検等を実施(車検1年毎)
⑱シルバーフォックス	・法定点検、月例点検等を実施
⑲グレイッシュラウム	・8月にわかばの家より返却され、9月より運行開始 ・車検整備、月例点検等を実施
⑳ワイワイたのしみ号	・車検整備、月例点検等を実施
㉑白熊	・月例点検等を実施
㉒それぞれダッシュ	・法定点検、月例点検等実施
㉓スノーホワイト	・車検整備、法定点検、月例点検等を実施(車検1年毎) ・ドライブレコーダー取付
㉔アルファード	・㈱トヨタレンタリース千葉とリース契約中 ・法定点検、月例点検等を実施
㉕ ワクワタのしみ号	・車検整備、月例点検等を実施 ・日本財団助成車両

・備品等

各車共通消耗品等	・クリンビュー・ウインドウウォッシャー液・バッテリー液・クーラント エンジンオイル・掃除用具等は適宜補充 ・公用車整備用の工具セットを購入
ETCカード	・ETCカードの管理は事務局とする ・使用する職員は、管理を徹底する
ドライブレコーダー	・ドライブレコーダーの機器の管理は車両係とする ・事故等があった場合は、運転していた職員が速やかにSDカードに記録された映像のバックアップを取り保管する

1 2. 環境整備(整理室)

1. 目標

- ①施設内外の清掃を行い、清潔さを保ち、衛生的に快適な住環境を提供すること。
- ②衣類や寝具等の洗濯を適宜行い、清潔な衣類等の提供をする。
- ③リネン類などの状態を把握し、清潔さを保ち、病気発生の予防に努める。
- ④害虫駆除を行い、病気の発生予防及び事故の防止に努める。
- ⑤各セクションから選出された環境整備係メンバーに上記のような環境整備の意義を伝え、グループセクションでリーダーシップを発揮できるようにする。

2. 実施内容

- ①施設内外の清掃を行い、清潔さを保ち、衛生的に快適な住環境を提供すること。
 - ・日常清掃：各居室・トイレ・浴室などの清掃を毎日行い、清潔な住環境を提供することに努めた。
 - ・週末清掃：日常的に行き届きにくい箇所や、見落としがちな箇所等を重点的に行った。
 - ・業務委託：業者によるワックス掛けを含んだ清掃を行った。

- ・業務委託：モップ、玄関マットの定期交換により、掃除用品の交換を行った。
 - ・感染予防：感染症予防の為、次亜塩素系薬剤による消毒を行った。また、感染症が発生の折には広がりや予防するため、積極的に洗濯物の分別を行った。
 - ・新型コロナウイルス感染症防止の為、高頻度触面のアルコール消毒を日課とした。
- ②衣類や寝具等の洗濯を適宜行い、清潔な衣類等の提供をする。
- ・衣類：利用者の衣類は毎日洗濯を行い、清潔さを保てるようにした。
 - ・寝具類：シーツ、布団カバー、枕カバー等は一週間に一度(土曜日)に、布団類については季節が変わる時に全員の洗濯を行ったが、汚れが特にひどく必要と思われる場合は適宜洗濯を行った。
- ③リネン類などの状態を把握し、清潔さを保ち、病気発生の予防に努める。
- ・定期的な補充：シーツやタオルなど使い心地だけでなく、破れた物は修繕を心掛け見た目の劣化にも注意し定期的な補充を心がけた。
 - ・保管方法：リネン専用の部屋で保管し、清潔さを保つようにした。
- ④害虫駆除を行い、病気の発生予防及び事故の防止に努める。
- ・ゴキブリ・ネズミ駆除：業者による定期的な生息調査、消毒、薬剤補充などの防除を行った。
 - ・その他の害虫駆除：蜂・毛虫・蜘蛛などの害虫駆除を行い、利用者が安全に生活できるように建物外周にも気を配った。
- ⑤グループから選出された環境整備係メンバーに上記のような環境整備の意義を伝え、グループセクションでリーダーシップを発揮できるようにする。
- ・月に一回、グループセクションの環境整備係を招集し、打ち合わせを設けた。その話し合いの中で、環境整備の必要性や意義を伝えると共に、一人一人がグループにおいて利用者の住環境の向上や清掃に関するリーダーシップを発揮できるように意識づけていった。係はグループの代表で打ち合わせに参加しているという自覚を持ち、打ち合わせで決定した内容を各セクションのメンバーに確実に周知して実行してもらうようにした。

別紙1 (拠点用事業報告関係)

2021年度 年間行事等実施状況

項目 月	行 事		職員研修		職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理		そ の 他	
	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容
4月	2	ひかりの父母会	1 20	新人研修 研修係打合せ	8 16	環境整備打合せ 厨房会議	8 29	災害対策委員会 のびろ避難訓練	8 14 21 23	苦情解決委員会 人権擁護委員会 労働衛生委員会 苦情解決委員会		
5月			23 18	新人研修 研修係打合せ	11 13 18 19 21	運営会 環境整備打合せ 運営会運営会 医務打合せ 厨房会議	27	のびろ避難訓練	10 12	労働衛生委員会 人権擁護委員会	13	サービス向上委員会 事故防止委員会
6月			11 15	全体会 研修係打合せ	10 11 23	環境整備打合せ 厨房会議 医務打合せ	10 24	災害対策委員会 のびろ避難訓練 たのしみ避難訓練	9 28	人権擁護委員会 労働衛生委員会 たのしみ健康診断	3 29	高齢化対策会議 キャリアパス委員会
7月	23	夏まつり	6 10 20 23	研修係打合せ 新人研修 研修係打合せ プール講習会	6 8 16 20 28	運営会 環境整備打合せ 厨房会議 運営会 医務打合せ	22	のびろ避難訓練	14 15 26	人権擁護委員会 苦情解決委員会 労働衛生委員会	1 8	高齢化対策委員会 事故防止委員会 サービス向上委員会
8月	28	たのしみ夕涼み会	3 17 31	研修係打合せ 研修係打合せ 研修係打合せ	6 10 12 17 24 26	厨房会議 運営会 環境整備打合せ 運営会 運営会 医務打合せ	6 12	総合避難訓練 災害対策委員会	16 24 26	労働衛生委員会 人権擁護委員会 労働衛生委員会	5 6	高齢化対策委員会 キャリアパス委員会
9月			12 21 28	全体研修 研修係打合せ 研修係打合せ	3 9 21 31	厨房会議 運営会 環境整備打合せ 運営会 運営会	23 15	のびろ避難訓練 災害対策委員会	8 13	人権擁護委員会 労働衛生委員会	9	事故防止委員会 サービス向上委員会
10月	18 22 25	ひかりの面会 うぐいす園運動会 ひかりの面会	19	研修係打合せ	5 14 15 19 26	運営会 環境整備打合せ 厨房会議 運営会 運営会	5 14 28 28	ひかりの避難訓練 災害対策打合せ のびろ避難訓練 災害対策委員会	13 14 19	人権擁護委員会 苦情解決委員会 労働衛生委員会 生活習慣病予防健診 (14、21、22)	7	高齢化対策委員会

	行事		職員研修		職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理		その他	
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
11月	8 12	ひかりの父母会 きずな父母会	16	研修係打合せ	2 9 11 12 16 17 19 23 30	運営会 運営会 環境整備打合せ 厨房会議 運営会 医務打合せ 厨房会議 運営会 運営会	25	のびろ避難訓練	10 11	人権擁護委員会 労働衛生委員会	4 10 11 18	高齢化対策委員会 キャリアパス委員会 サービス向上委員会 事故防止委員会
12月	10 24 28	ヒツジ遠足 クリスマス会 GH忘年会	21	研修係打合せ	7 9 14 17 21	運営会 環境整備打合せ 運営会 厨房会議 運営会 医務打合せ	9 16	災害対策委員会 のびろ避難訓練	8 10 27	人権擁護委員会 苦情解決委員会 労働衛生委員会	3	高齢化対策委員会
1月	5 20	餅つき大会 ひかりの学園新年会	18	研修係打合せ	11 13 14 18 25	運営会 環境整備打合せ 厨房会議 運営会 運営会	21	ヒツジ避難訓練	12 28	人権擁護委員会 人権擁護委員会	13	事故防止委員会
2月			15	研修係打合せ	1 10 8 15 22	運営会 環境整備打合せ 運営会 運営会 運営会 厨房会議	10 22	災害対策委員会 総合避難訓練	21 23	労働衛生委員会 人権擁護委員会		
3月	19	ヒツジ巣立ちを祝う会	1 15 19 27 28	研修係打合せ 研修係打合せ 新人研修 全体研修 新年度打合せ 新年度打合せ	15	運営会	23 24	たのしみ避難訓練 のびろ避難訓練	16 24 17	人権擁護委員会 労働衛生委員会 夜勤者対象健康診断	3 10	高齢化対策委員会 サービス向上委員会 事故防止委員会

事業拠点組織図(嬉泉福祉交流センター[袖ヶ浦])

